

[様式 9 - 1]

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	のぞみ保育園	施設種別	保育所 (旧体系：)
評価機関名	一般社団法人 京都府保育協会		

令和 2 年 1 月 3 0 日

総 評	<p>のぞみ保育園は、「感動そして共感と信頼」という理念を掲げ、平成 23 年 4 月に開園し、「子ども発達さぼーとセンター・あゆみ園」と事業所内保育室「のぞみ保育室」を併設した「ゆめこども館」にあります。すぐ近くを宇治川が流れ、宇治の観光地にも近い立地であり、田んぼや畑も広がる自然豊かな地域に囲まれています。</p> <p>障害児保育に熱心に取り組み、「子ども発達さぼーとセンター」が併設されている利点を生かしてそれぞれの職員が助け合って保育されています。また、各保育室の前にはドキュメンテーション（写真を活用した掲示）が貼られており、保育の質向上に力を入れられています。</p> <p>きょうと福祉人材育成認証制度でも認証を受けられ、職員の目標管理や人事考課制度なども構築されており、組織全体で人材の育成や確保に取り組んでいます。</p>
特に良かった点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ・施設長は、保育士の充実や完全週休二日制の導入など、人員配置や職員にとって働きやすい職場作りに熱心に取り組んでいます。 ・安全管理においては水害が予想される地域であることから、避難にかかる経路、手順等十分に検討され、訓練も実施されています。また、近隣住民の方々も園舎 2 階が避難場所として準備され、地域住民への配慮がなされています。 ・保育室は一人一人の子どもが落ち着ける場所を見つけられるようにコーナーが設けられており、玩具や素材・道具等も用意され、子どもたちが意欲的に遊びを創造、展開できるように環境が整えられています。
特に改善が望まれる点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の質向上に向けた取り組みとして、5年に1回第三者評価を受診しています。今後は、第三者評価以外にも園全体の自己評価を年に1回行うとさらに良いでしょう。 ・保育に係る計画、実施後の振り返りは定期的には実施され、職員間で議論されていますが、標準的な実施方法については文書化されていません。保育の手順書などが文書化されると実施後の見直しにも役立つため作成されると良いでしょう。 ・子どもの健康に関するマニュアルを整備すると共に、保健計画を年間行事計画などに明示するなど、健康で安全な生活を送るための取り組みが利用者に周知されるとより良いでしょう。

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【保育所版】 評価結果対比シート

(注)判断基準「a b c」について

【平成28年度以前の基準とは異なるため、当評価結果との対比はできませんのでご注意ください】

(a)は質の向上を目指す際の目安となる状態、(b)は多くの施設・事業所の状態、(c)はb以上の取り組みとなることを期待する状態、に改定されました。改訂後の評価基準に基づいた評価では(b)が一般的な取り組み水準となり、従前に比べて(b)の対象範囲が広がります。また、改正前に(a)であった評価項目が改正後の再受診で(a)を得られなくなる可能性もあります。

受診施設名	のぞみ保育園
施設種別	保育所
評価機関名	一般社団法人 京都府保育協会
訪問調査日	令和2年1月30日

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	1	① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b	b
			[自由記述欄]		
<p>・保育理念「感動 そして共感と信頼」はとてわかりやすく明文化され、子どもだけでなく保護者や地域、職員への思いが込められており、法人の目指す方向・考え方を読み取ることができます。また、保育理念をはじめ目指す法人像や望ましい職員像について書かれている「クレド（行動指針）」を全職員に配布し、職員はそれを常備しており、職員への周知が図られています。</p>					

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-2 経営状況の把握	I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	2	① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a	a
			3	② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	b
[自由記述欄]					
<p>・法人本部が上半期・下半期に分けて施設長にヒアリングを行い、事業計画や予算の執行状況、園児数の増減などを分析しています。</p>					

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-3 事業計画の策定	I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	4	① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a	a
			5	② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a
	I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。	6	① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b	b
			7	② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	b
[自由記述欄]					
<p>・「中期経営計画」が策定されており、木津川市の人口推移や入園希望園児の増減、市内保育園の定員推移（新設やこども園移行など）など、多角的な計画となっています。</p> <p>・「中期経営計画」をもとに「事業計画」が策定され、利用者・職員・財務の三つの観点からアクションプランを立て、それぞれのプランに責任者を設置し、4月から3月までどのように進めていくかが記載されています。</p>					

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組	I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	8	① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b	b
			9	② 評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
[自由記述欄]					
<p>・保育の質向上に向けた取り組みとして、5年に1回第三者評価を受診しています。受診に向けてプロジェクトチームを発足し、1人ずつが全項目を自己評価し協議を行っています。今後は、第三者評価以外にも園全体の自己評価を年に1回以上、定期的に行うとさらに良いでしょう。</p>					

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-1 管理者の責任とリーダーシップ	II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。	10	① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b	b
		11	② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b	b
	II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	12	① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a	a
		13	② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a	a

[自由記述欄]

- ・職務分掌については、運営規程に記載されており、職員にも周知されています。
- ・施設長は、京都府保育協会や宇治市民間保育園長会の研修に自らも参加し、順守すべき法令などを理解しています。宇治市のごみ減量推進課の指導により、ゴミの分別などを学び環境への配慮にも取り組んでいます。
- ・施設長は、保育士の充実や完全週休二日制の導入など、人員配置や職員にとって働きやすい職場作りに熱心に取り組んでいます。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	b
II-2 福祉人材の確保・育成	II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	14	① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b	a
		15	② 総合的な人事管理が行われている。	a	a
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	16	① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b	b

[自由記述欄]

- ・きょうと福祉人材育成認証制度でも認証を受けられ、職員の目標管理や人事考課制度など組織全体で人材の育成や確保に取り組まれています。
- ・施設長は年に1回職員面談を行い、職員の要望や仕事以外の悩みなどを聞いています。職員のストレスチェックや感染症の予防接種補助も行っており、働きやすい職場環境作りに取り組まれています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-2 福祉人材の確保・育成	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	17	① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a	a
		18	② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b	a
		19	③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	b	a
	II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。	20	① 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b	b

[自由記述欄]

- ・職員に配布している「クレド(行動指針)」の中に、期待する職員像が書かれており、キャリアパスの中に職員に必要とされる専門技術や資格が明示されています。
- ・研修計画は毎年見直しが行われており、職員は年に複数回研修を受けています。研修報告には、園長がコメントを入れ、研修成果の分析を行っています。参加希望を募る研修では、若手職員が気を使わず希望を伝えられるような工夫もされています。
- ・OJT育成計画は、新卒者一人一人個別に計画が作成されています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅱ-3 運営の透明性の確保	Ⅱ-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	21	① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b	b
		22	② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b	b
[自由記述欄]					
<p>・ホームページには、理念や方針・予算や決算情報などが適正に公開されており、誰でも閲覧できるようになっています。今後は、地域へ向けて園のパンフレットや園だより等を配付されるとさらに良いでしょう。</p>					

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅱ-4 地域との交流、地域貢献	Ⅱ-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	23	① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b	b
		24	② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b	b
	Ⅱ-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。	25	① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	c	b
	Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	26	① 保育所が有する機能を地域に還元している。	b	b
		27	② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b	b
[自由記述欄]					
<p>・地域とのかかわり方については事業計画において記載されています。</p> <p>・ボランティアの受け入れの姿勢を明文化し、子どもと直接接する際の助言を口頭で行っています。事前研修という形となることが期待されます。</p> <p>・病児保育などを受け入れる機関など、職員会議で情報共有がなされ、保護者へも口頭で情報提供がなされています。</p> <p>・災害時には2次避難所としての機能を果たしています。</p> <p>・地域の防災訓練には職員が参加し、災害時の役割を明確にしています。</p>					

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	28	① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	b	b
		29	② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	b	b
	Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意(自己決定)が適切に行われている。	30	① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	b	b
		31	② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	b	b
		32	③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	b	b

[自由記述欄]

- ・職員は子どもを尊重した保育を行う姿勢を明記した「クレド(行動指針)」を常に参照できるようにしています。今後は、子どもの人権、文化の違い、お互いを尊重する心について、保護者会などの場面で示していくことで保護者にも理解していただけるでしょう。
- ・規程に従って子どものプライバシーと権利が守られるよう配慮されています。不適切な事案が発生した場合の対応についてマニュアルが作成されるとなおいでしょう。
- ・利用希望者に、分かりやすいパンフレットや、園見学希望者には丁寧な説明がされています。
- ・保護者への説明は重要事項説明書に基づきされていますが、特に配慮の必要な家庭への説明については、丁寧に行えるよう工夫されるとより良いでしょう。
- ・転園児引き継ぎ書の「発達の様子」に基本の様式を定めらる方が、記載漏れがなくおいでしょう。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	33	① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b	b
		34	② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	b	b
		35	③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b	b

[自由記述欄]

- ・苦情解決の仕組みは掲示されていますが、入園のしおりに記載されると保護者への周知が十分になされるでしょう。
- ・保護者が相談しやすいように個室が確保されています。意見を述べるための複数の方法として意見箱を設けることも方法の一つと考えられます。
- ・保護者からの意見・要望は、ノートや、口頭で伝えられ、迅速に対応しています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。	36	① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b	b
		37	② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b	b
		38	③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。	a	a
		39	④ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	a	a

[自由記述欄]

- ・事故発生時のレポート「アクシデントレポート」をファイリングし安全確保に努めていますが、安全管理に関する委員などを設置するなど、定期的な見直しや、事故にかかる分析などが進むよう工夫されるとより良いでしょう。
- ・感染症対策マニュアルは、毎年見直されています。より深い感染症対策や職員周知につながるよう担当者を明確にされるとより良いでしょう。
- ・立地条件により水害について、地域の住民を含めた、避難計画を立てています。
- ・不審者に対するマニュアルは年1回見直しがなされ、警察署による訓練の実施を予定しています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-2 福祉サービスの質 の確保	Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な 実施方法が確立している。	40	① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	b	c
		41	② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	c	b
	Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉 サービス実施計画が策定されてい る。	42	① アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。	c	b
		43	② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	c	b
	Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に 行われている。	44	① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b	b
		45	② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b	b

[自由記述欄]

- ・ 保育について標準的な実施方法を文書化することで一定の水準での保育が担保されます。
- ・ 保育に係る振り返りは毎月実施されています。標準的な実施方法が文書化されると振り返りや、記録を残しやすくなるでしょう。
- ・ 入園前の保護者面談で作成したアセスメントに基づき、指導計画を作成しています。今後は、入所後もアセスメントに基づいて指導計画を策定するとなお良いでしょう。
- ・ 保育の実施状況の評価、計画の見直しをした際、副園長、園長の確認がなされていることが分かるよう仕組みを定めるとなお良いでしょう。
- ・ 子どもに関する保育の実施状況を職員会議等で共有しています。正規職員、非正規職員それぞれの会議を実施することで徹底されています。
- ・ 記録管理の責任者として園長が保管場所、管理方法をチェックしています。記録の管理については、職員への研修などが行われるとなお良いでしょう。

A-1 保育内容

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-(1) 全体的な計画の編成	46	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を編成している。	b	a
		47	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b	b
	A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	48	② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b	a
		49	③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	b	a
		50	④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	b	a

[自由記述欄]

- ・全体的な計画は、保育所の理念と保育の基本方針に基づいて作成されています。今後も、子どもたちの心身の発達や家庭、地域の実態に応じた内容であるか定期的な見直しがされるとより良いでしょう。
- ・園舎内外は整理整頓がなされ清潔な環境が整えられています。玄関や階段、廊下の通路半面にカーペットが敷いてあり裸足で過ごす子どもたちへの配慮がなされています。
- ・保育室は一人一人の子どもが落ち着ける場所を見つけられるように、コーナーが設けられており玩具や素材、道具などが用意され、子どもたちが意欲的に遊びを創造、展開できるように環境が整えられています。
- ・保育士の手作り玩具もあり自分の遊びたい玩具がすぐ取り出せる配置や片付ける場所がわかるように写真を掲示するなど、子どもたちが主体的に活動できる環境が整えられています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	51	⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		52	⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		53	⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b	a
		54	⑧ 障害のある子どもが安心して生活でき喜んで遊べる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		55	⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b	b
		56	⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	b	b

[自由記述欄]

- ・保護者が記入する登園ボードを活用し、1歳児では朝食時間でグループを分けて、おやつ・給食を食べる時間など個々に合わせた配慮があります。
- ・食事、着替え、遊びのコーナーを設置しコーナーごとの配慮や子どもたちがわかりやすい動線作りなどがあります。
- ・乳児に対しては、ゆったりとした環境が確保され、保護者の安心が得られる環境があります。
- ・長時間保育のための環境として、同じ部屋で受け入れ、ゆったりとした関わりの中で不安になったり寂しくならないように配慮されています。担当保育士がおり、信頼関係が築けるよう工夫されています。指導計画に援助、配慮事項が反映されるとより良いでしょう。
- ・小学校との連携は、小学校との接続カリキュラムを作成し意見交換ができるようにすると良いでしょう。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-(3) 健康管理	57	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	b	b
		58	② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	b	b
		59	③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b	a
	A-1-(4) 食事	60	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a	a
		61	② 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている。	b	b

[自由記述欄]

・入園のしおりに健康に関する事項が明示されています。子どもの健康に関する基本的なマニュアルを整備するとともに保健計画を年間行事計画などに明示するなど、健康で安全な生活を送るための取り組みが利用者に周知されるとより良いでしょう。

・健診結果は記録され職員に周知されています。保健指導につなげたり保健計画に反映され保育が行われるとより良いでしょう。

・食物アレルギーを持つ子どもへの対応については、研修で得た知識、情報、技術などの周知がなされています。食物アレルギーにかかる誤食時・接触時の緊急手順を定め、対応マニュアルに沿って定期的に訓練を行うとより良いでしょう。

・旬の素材や行事食を提供するなど季節感のある献立となるよう工夫されています。地域の食文化に関心を持つことが出来るよう配慮されるとより良いでしょう。

A-2 子育て支援

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-2 子育て支援	A-2-(1) 家庭との緊密な連携	62	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	b	b
	A-2-(2) 保護者の支援	63	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b	a
		64	② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b	b
	A-3-(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)	65	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b	a

[自由記述欄]

・送迎時に保護者とのコミュニケーションをとり信頼関係を築いています。連絡ノートを活用し、日々の保護者との情報交換が充実するよう取り組んでいます。育児の悩みなどの相談にも丁寧に回答し保護者に寄り添っています。必要に応じて関係職員で共通理解をし、継続した相談、支援が出来るように児童票などに個別にまとめられるとより良いでしょう。

・児童虐待防止マニュアルを整備し必要に応じて関係機関と連携がとれる体制が整っています。通告義務があることを明示するなど虐待の早期発見、早期対応に園全体で努められるとより良いでしょう。